

2026年4月の生産・出荷実績に関する石油化学工業協会コメント

令和8年5月21日

2月末のホルムズ海峡の実質封鎖以来、当協会の各会員企業においては、国内石油精製からのナフサ調達の継続、中東以外からのナフサ調達の拡大及び製品在庫の活用により、石油化学製品の供給継続に全力を尽くしている。

4月の生産・出荷実績は、ナフサクラッカー等における定修の集中や中東情勢の変化を受けた需要の先取り等の影響もあり、生産量は前年同月比で減少したが、ナフサ等の原料調達の取り組み等により、主要石油化学製品であるポリエチレンやポリプロピレンは3月の生産量から大幅に増加している。また、国内出荷においてはポリエチレンやポリプロピレンといった主要石油化学製品では、製品毎に差は見られるが、全体として供給は維持できている。

在庫の状況についても、ポリエチレンやポリプロピレンといった主要石油化学製品では国内需要の3カ月以上の水準を維持しており、直ちに供給困難となる状況ではないと認識している。また、国内石油精製から供給される国産ナフサが一定量確保され、影響緩和に寄与している。さらに会員会社による継続的な中東以外の地域からのナフサの代替調達の確保が進み、従来は2割程度であった中東以外の輸入ナフサ量は5月には大幅に増加する見込みとなっている。

当協会としては、引き続き、国及び会員企業と密接に連携しつつ関連情報収集や必要な措置の徹底など安定供給に必要な対応を行っていくこととしている。

最後に、当協会としては、事態が一刻も早く収束し、ペルシャ湾地域における船舶の安全航行が回復することを強く求めるものである。

【本件に関するお問合せ】

石油化学工業協会

志村、武井 TEL 03-3297-2019

石油化学工業協会

2026年4月実績概要(メモ)

(2026. 5. 21)

定修等による減産影響が後退し、各誘導品の生産は前月に対して大幅な増産が見られる。

1. 生産動向

イ) エチレン 283,500トン

前月比 + 3.6% (+ 9,800トン)
 前年同月比 ▲37.1% (▲167,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	—
定修要因等	+ 10.2%	▲ 22.6%
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 3.4%	▲ 14.5%
生産増減率	+ 3.6%	▲ 37.1%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月68.8%* → 当月67.3% ← 前年同月78.6%

定修プラント：前月4社4プラント → 当月4社4プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数減があるものの定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、MMAモノマー、アセトアルデヒド、AN、SBR、BRなどの9品目がプラス。SM、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの8品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの16品目がマイナス。アセトアルデヒドのみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比は、日数の減少に対し、定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PPの3樹脂は二桁台のプラス、PSのみはマイナスとなった。

前年比は、主に定修規模差や稼働率要因等から4樹脂ともにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費のマインドは、暮らし向きや耐久消費財の購入の面で前月に比べて弱含みが見られる。国内の生産活動自体は、4月時点の予測で生産用機械、電子部品・デバイス等は等で上昇が見られているが、トレンドとしては、弱気面が強めにでている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、原料情勢の先高感から3月の出荷が比較的増加したこともあり、当月は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。前年比でもHDPEは微減におさまるものの3樹脂はマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、フィルム等の包装材分野は、前年比でLDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

包材以外の出荷分野では、LDPEは電線被覆分野等がプラス、HDPEは中空成形分野をはじめ、射出成形分野、パイプ分野がプラス。PPは射出成形分野の工業部品関係、フラットヤーン分野が前年を上回る出荷となった。また、PSは電機・工業用、FS分野がプラスとなった。

ハ) 輸出

原料情勢の変化が激しくなっていることから域内需要サイドは買い控えが見られる。また、国内向けの出荷との兼ね合いもあり輸出への振り向けは減少し、前月比、前年比ともに4樹脂でマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSで減少したが、減少幅はやや低下した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PP、PSで低下、HDPEは横這いとなった。在庫水準としては、LDPEはやや高め、HDPEは高め、PPはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LDPE	▲22,200	3.4	3.3
HDPE	▲9,700	3.6	3.6
P P	▲13,700	3.2	3.0
P S	▲8,700	1.7	1.5

前月からの修正を*で付記

以上